

## 活動報告

本校の学校教育目標「心身共に健康な子」の育成のための平成29年度のキーワードは『リスペクト（大切に思うこと）』である。これを踏まえて「確かな学力」を育む教育活動の推進及び、「豊かな心」の育成のため、一人一人を大切にし、個に応じた教育の充実を図っている。本校では次の4点に重点を置いている。

- ・ 明確な学習目標の設定。〈学び創造アクティブプラン〉研究の継続・推進。
- ・ 問題解決的な学習や体験的な活動など多様な学習形態を取り入れる。
- ・ 少人数指導の工夫・改善。（習熟度別学習の導入）
- ・ 学習支援ボランティア・応援団の積極的な導入。

これらを実現するためには、担任一人の指導だけでは限界があるため、「学習支援員」及び「特別支援教育支援員」との連携や「小学校外国語活動支援員」「心のふれあい相談員」「心身障害児介助員」「学校司書」の活用を効果的に推進することが重要である。

### 学習支援員



学習内容の理解の速さやつまづいている箇所などを、個別に、またはグループ別に、児童の理解に応じて、きめ細かに学習支援していく。特に、算数では、単元により、担任と協力して、少人数指導や習熟度別指導形態を取り入れ、学習の効果を高めている。

### 特別支援教育支援員



一斉学習において、特に配慮が必要な児童に寄り添い、つまづきや不安を取り除くことに努め、学習の理解について支援している。また、作業学習では、道具の安全な扱い方を、一緒に作業することにより、具体的に支援している。

### 小学校外国語活動支援員



AET と担任と協力しながら、体を動かしたり、ゲームをしたりしながら、笑顔でワクワクする外国語活動の時間を目指している。年間計画に沿って、あいさつや歌、動作化を取り入れている。

## 心のふれあい相談員



登校をしづる児童や教室の授業に入りづらい児童に寄り添い、担任と連携しながら、学習課題を与え、相談室で個別指導を行っている。

配慮を要する児童の教室に入り、給食を一緒に食べたり、保護者の面談や電話による相談を受けたりする活動も行っている。

## 心身障害児介助員



特別支援学級の担任と協力し、児童の各教科の授業や自立活動での補助をする。また、遠足等の学校行事に参加する際に、補助として身近に寄り添い、観察や励ましの言葉がけをしている。

## 学校司書



日常の図書の本の管理や貸し出し、返却事務の電子化を推進している。また、図書ボランティアと連携し、図書室の掲示や本の修理等、児童が楽しく利用できるように努めている。さらに、低学年の児童には読み聞かせも行っている。

## 活用の成果

**成果** : 一斉指導では理解や知識の定着が難しい児童や、作業場面等において活動に戸惑う児童に対し、きめ細やかな個別の支援や適切な言葉がけを行うことにより、児童が安心して授業を受けることができた。また、教科の特性を考慮し、担任と連携した、複数での指導により、効果的な学習が推進できた。

**児童の感想** : わからない時には、いつも近くに先生がいてくれて、やさしく教えてくれるのでうれしい。授業が前より、楽しくなった。

**保護者の感想** : 複数の目で、また、個別に教えてくださるのでありがたい。子どものことをよく理解し、いつもやさしい言葉をかけてくださり、感謝しています。